

この度は、「薬剤師国家試験対策参考書[改訂第10版]⑥薬剤」をご購入いただき、誠に有難うございます。  
 本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。  
 ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

薬学ゼミナール編集 青本[改訂第10版]⑥薬剤 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後																				
P80 表 ●抱合代謝の種類と反応を受ける基質の例及び極性基	<table border="1"> <tr> <td>アセチル抱合</td> <td>……</td> <td>カルボキシ基</td> </tr> <tr> <td>アミノ酸抱合</td> <td>……</td> <td>アミノ基</td> </tr> </table>	アセチル抱合	……	カルボキシ基	アミノ酸抱合	……	アミノ基	<table border="1"> <tr> <td>アセチル抱合</td> <td>……</td> <td><u>アミノ基</u></td> </tr> <tr> <td>アミノ酸抱合</td> <td>……</td> <td><u>カルボキシ基</u></td> </tr> </table>	アセチル抱合	……	<u>アミノ基</u>	アミノ酸抱合	……	<u>カルボキシ基</u>								
アセチル抱合	……	カルボキシ基																				
アミノ酸抱合	……	アミノ基																				
アセチル抱合	……	<u>アミノ基</u>																				
アミノ酸抱合	……	<u>カルボキシ基</u>																				
P92 表 ●代謝阻害の様式	<table border="1"> <tr> <td>CYPへム鉄への共有結合</td> <td>           エリスロマイシン            (14員環マクロライド系抗生物質)  <u>グレープフルーツジュース</u>            (フラノクマリン誘導体含有)         </td> </tr> </table>	CYPへム鉄への共有結合	エリスロマイシン (14員環マクロライド系抗生物質) <u>グレープフルーツジュース</u> (フラノクマリン誘導体含有)	<table border="1"> <tr> <td>CYPへム鉄への共有結合</td> <td>           エリスロマイシン            (14員環マクロライド系抗生物質)         </td> </tr> </table>	CYPへム鉄への共有結合	エリスロマイシン (14員環マクロライド系抗生物質)																
CYPへム鉄への共有結合	エリスロマイシン (14員環マクロライド系抗生物質) <u>グレープフルーツジュース</u> (フラノクマリン誘導体含有)																					
CYPへム鉄への共有結合	エリスロマイシン (14員環マクロライド系抗生物質)																					
P93 表 ●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用 見出し	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用</th> </tr> <tr> <th>CYPの分子種</th> <th>阻害剤(例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キサンチンオキシダーゼ</td> <td>・アロプリノール ・フェブキシostat</td> </tr> <tr> <td>モノアミンオキシダーゼ</td> <td>・セレギリン</td> </tr> <tr> <td>ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ</td> <td>・5-フロモビニルウラシル</td> </tr> </tbody> </table>	●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用		CYPの分子種	阻害剤(例)	キサンチンオキシダーゼ	・アロプリノール ・フェブキシostat	モノアミンオキシダーゼ	・セレギリン	ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ	・5-フロモビニルウラシル	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用</th> </tr> <tr> <th>代謝酵素</th> <th>阻害剤(例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キサンチンオキシダーゼ</td> <td>・アロプリノール ・フェブキシostat</td> </tr> <tr> <td>モノアミンオキシダーゼ</td> <td>・セレギリン</td> </tr> <tr> <td>ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ</td> <td>・5-フロモビニルウラシル</td> </tr> </tbody> </table>	●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用		代謝酵素	阻害剤(例)	キサンチンオキシダーゼ	・アロプリノール ・フェブキシostat	モノアミンオキシダーゼ	・セレギリン	ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ	・5-フロモビニルウラシル
●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用																						
CYPの分子種	阻害剤(例)																					
キサンチンオキシダーゼ	・アロプリノール ・フェブキシostat																					
モノアミンオキシダーゼ	・セレギリン																					
ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ	・5-フロモビニルウラシル																					
●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用																						
代謝酵素	阻害剤(例)																					
キサンチンオキシダーゼ	・アロプリノール ・フェブキシostat																					
モノアミンオキシダーゼ	・セレギリン																					
ジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ	・5-フロモビニルウラシル																					
P97 ●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用 見出し	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用</th> </tr> <tr> <th>CYPの分子種</th> <th>阻害剤(例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP-グルクロン酸転移酵素</td> <td>カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)</td> </tr> </tbody> </table>	●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用		CYPの分子種	阻害剤(例)	UDP-グルクロン酸転移酵素	カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用</th> </tr> <tr> <th>代謝酵素</th> <th>誘導剤(例)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UDP-グルクロン酸転移酵素</td> <td>カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)</td> </tr> </tbody> </table>	●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用		代謝酵素	誘導剤(例)	UDP-グルクロン酸転移酵素	カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)								
●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用																						
CYPの分子種	阻害剤(例)																					
UDP-グルクロン酸転移酵素	カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)																					
●CYP以外の代謝酵素が関係する薬物相互作用																						
代謝酵素	誘導剤(例)																					
UDP-グルクロン酸転移酵素	カルバペネム系抗生物質 (メロベネム、パニベネム)																					
P99 3 表 阻害薬(例) 上から4行目	・アゾール系抗真菌薬……	・アゾール系抗真菌薬……																				
P108 図 ●尿細管分泌機構の模式図																						
P208 表 ●ボリコナゾールの中毒症状・薬物動態 薬物動態の項 6行目	・目標トラフ値は1~2 μg/mL 以下とする	・目標トラフ値は1~2 μg/mL 以上とする																				

P212 図 ●採血管	<p>ふた 血清分離剤 薬物 抗凝固剤 血液</p>	<p>ふた 血漿分離剤 薬物 抗凝固剤 血液</p>									
P213 1行目	……遠心分離により血漿……	……遠心分離により血漿……									
P257 表 固体分散体	薬物を不溶な高分子……	薬物を水に可溶な高分子……									
P291 8 HLB 値 2行目	……=HLB <sub>B</sub> ×Aの質量分率+……	……=HLB <sub>A</sub> ×Aの質量分率+……									
P413 表 ●打錠障害	<p><b>スティッキング</b> 杵面に錠剤の一部が付着してはがれる現象</p> <p><b>ピッキング</b> 小斑点状凸凹が錠剤表面につく現象</p>	<p><b>スティッキング</b> 杵面に錠剤の一部が付着してはがれる現象</p> <p><b>ピッキング</b> 小斑点状凸凹が錠剤表面につく現象</p>									
P467 一番下に追加		11 PEG 化医薬 ポリエチレングリコール(PEG)は薬物に結合させることで、リポソーム製剤同様、血中滞留性の向上が見られる。この代表例として、PEG 化インターフェロンが実用化されており、主薬の作用時間が延長することで注射回数が少なくて済み、患者のQOLの改善に寄与している。									
P472 4 高分子化医薬の例	(1)PEG 化医薬 ポリエチレングリコール(PEG)は薬物に結合させることで、リポソーム製剤同様、血中滞留性の向上が見られる。この代表例として、PEG 化インターフェロンが実用化されており、主薬の作用時間が延長することで注射回数が少なくて済み、患者のQOLの改善に寄与している。	削除									
P474 表一番下	<table border="1"> <tr> <td>PEG 化タンパク質医薬品</td> <td>ペグインターフェロンアルファ-2a (ペグシス)</td> <td>○ 慢性肝炎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ペグインターフェロンアルファ-2b (ペグイソロン)</td> <td>○ 慢性肝炎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ペグシマント(シマバート)</td> <td>先端巨大症</td> </tr> </table>	PEG 化タンパク質医薬品	ペグインターフェロンアルファ-2a (ペグシス)	○ 慢性肝炎		ペグインターフェロンアルファ-2b (ペグイソロン)	○ 慢性肝炎		ペグシマント(シマバート)	先端巨大症	削除
PEG 化タンパク質医薬品	ペグインターフェロンアルファ-2a (ペグシス)	○ 慢性肝炎									
	ペグインターフェロンアルファ-2b (ペグイソロン)	○ 慢性肝炎									
	ペグシマント(シマバート)	先端巨大症									

薬学ゼミナール編集 青本[改訂第10版]⑥薬剤 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P47 問 6 解説 選択肢 2	……血漿中非結合形濃度 $C$ と組織中非結合形濃度 $C_t$ が……	……血漿中非結合形濃度と組織中非結合形濃度が……
P101 問 42 解説 2行目	……小腸粘膜上皮細胞の CYP の <u>へム鉄</u> と安定な……	……小腸粘膜上皮細胞の CYP と安定な……
P317 問 15 選択肢 5	……分子鎖内塩基対の……	……分子鎖間塩基対の……
P350 問 3 選択肢 2	……科学的安定性……	…… <u>化学的</u> 安定性……
P452 問 54 選択肢 2	……内用固形製剤からの……	…… <u>対象となる製剤</u> からの……